

『新春によせて』

一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構 推進機構長 嵯峨 直恒



嵯峨推進機構長

新年明けましておめでとうございます。3年程前からの新型コロナウイルス感染症の影響で、皆様におかれましては諸々の厳しい状況ながらも、佳き新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

さて、当機構も令和5年の今春で組織の設立から15年目、そして海洋研究センターの開所から10年目を迎え、次の4つの主要施策①水産・海洋に関する学術研究機関の集積 ②地域と学術研究機関の連携 ③観光と学術研究の融合 ④水産・海洋と市民生活の調和を柱に掲げ、産学官連携による新産業の創出、雇用の創出を促し、ひいては産業・経済の活性化に繋げる「国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市」の形成を目指してきたところであります。

①に関連しては、現在、函館水産試験場をはじめ、北海道大学大学院水産科学研究院や北方生物圏フィールド科学センター、北極域研究センター、公立はこだて未来大学、函館工業高等専門学校の6つの学術研究機関と、民間企業7社の研究開発部門の合計で13の試験研究機関が入居しており、各々の入居機関では水産・海洋領域に関連した研究開発が行われ、多くの成果を上げつつあります。

②に関連しては、地域の重要な水産資源であるイカの資源動向に関する研究や昆布の増養殖技術に関する研究、そして海洋観測に関する機器開発に向けた研究等が行われています。また、生産量の変動に晒される天然の水産資源に頼る漁業経営のリスクを補うため、地域の魚介藻類の増養殖へのニーズも高まってきています。既に、地域の重要な水産資源を対象とした増養殖振興に向けた取り組みも、海洋研究センター入居機関や地域の産学官の皆様との連携により始まっております。また、一昨年、函館市や北海道大学、そして当機構の三者共同による「キングサーモンの養殖」に関する研究開発が行われており、昨年からは、函館圏の産学官の協働による、キングサーモンとマコブの完全養殖等を目的とした、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業（通称「函館マリカルチャープロジェクト」）に採択され、当機構がその事務局機能の一端を担うこととなりました。

③、④に関連しては、例年であれば「マリンフェスティバル」等の海に親んでもらうためのイベント等のアウトリーチ活動に、市民・観光客の皆様には多数ご参加いただいているところでございますが、この間の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これらの行事を実施することができませんでした。一方、当機構の4つの主要施策の総合的な推進に向けて、当機構の念願である「国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市」の形成のため、地域の産学官金連携コーディネート・ハブ機能の強化が図られつつあります。

ところで、昨年もイカ・シロサケの不漁、天然物昆布の不作等、地域の水産・海洋産業にとって大変厳しい年でしたが、その一方で、新しい養殖産業、食関連の新産業の育成による地域振興の展望が見えて来た年でもありました。当機構としても、入居研究機関の方々とスクラムを組み、しっかりと地域の課題に向き合い、かつ、地域の産学官金、市民の皆様と連携して、水産・海洋を基軸とした地域の発展を切り拓いてゆく所存です。

結びにあたりまして、皆様の本年のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



1. 水産・海洋に関する学術研究機関の集積

『函館国際水産・海洋都市構想シンポジウム』 — 海洋研究センター成果報告会 — R4.3.2

「令和3年度函館国際水産・海洋都市構想シンポジウム」海洋研究センター成果報告会を開催いたしました。

本シンポジウムでは、日頃から海洋研究センターに入居する学術研究機関や民間企業が、新たな革新技術や新産業の創出に向けて取り組んでいる水産・海洋に関わる研究開発事業について報告を行いました。

これまで対面で行っていた本シンポジウムですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、初めてオンラインでの開催となりました。入居機関の成果をより多く発表してもらうために、これまでの報告会よりも発表数を増やし、入居6機関からそれぞれの研究内容やその成果について報告が行われました。

当日は約60名を超える参加があり、「養殖に向けた取り組みなど、大変参考になりました」、「実用化に向けた非常に素晴らしい取り組みと感じた」、「海洋研究センター内での活動を知る良い機会となりました」などの意見があり、今後益々海洋研究センター全体が一丸となって地域に貢献するべく、その必要性を改めて感じた報告会となりました。

函館国際水産・海洋都市構想シンポジウム
オンライン開催
海洋研究センター成果報告会
【主催】一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構、函館市

日時：2022年3月2日（水）14:00～16:10
会場：オンライン開催
(Microsoft Teamsを使用)

参加無料
(事前申込制)

講演内容

講演1. 「戦略的魚介養殖推進事業について」
株式会社水産流通 松川 雅博 氏

講演2. 「衛星データを用いた函館周辺における養殖進捗の検討」
株式会社グリーン&ライフ・イノベーション 加藤 俊博 氏

講演3. 「海産物への取り組み」
株式会社エコテック 取締役兼経営企画部チームリーダー 大島 広希 氏

講演4. 「養殖コンブ取産期におけるモニタリングの付帯について」
北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 調査研究部 研究主幹 佐野 秀樹 氏

講演5. 「荒辺地川で懸念される魚によるサケ稚魚食害の実態解明」
北海道大学北方水産学フィールド科学センター 博士研究員 佐藤 信彦 氏

講演6. 「ミライの漁業」
公立はこだて未来大学 教授 和田 謙司 氏

申込方法 申込締切：2022年2月22日（火）

●参加希望の方は、WEBフォームまたはメールよりお申込み下さい。
➡ <https://forms.gle/dagN2HUmFdV8mqep6>
➡ office@marine-hakodate.jp

●メールでのお申し込みは、件名を「成果報告会申込」とし、①氏名 ②所属 ③住所を明記し、お申込み下さい。
●当日オンライン視聴される方には、視聴のためのURLを後日メールにてご案内いたします。
●メールが来ない場合は下記問い合わせ先にご連絡ください。
※電話・FAXでのお申込みはお受けできませんのでご了承ください。

お問合せ先
一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構（函館市井天町20番5号）
TEL：0138-21-4700 E-mail：office@marine-hakodate.jp
※申込いただいた事項は、参加者とりまめ、連絡等に使用しますので、それ以外の目的には使用しません。

オンライン講演会のチラシ

2. 地域と学術研究機関の連携

『令和4年度イカ資源評価と予測に関する講演会』 R4.6.13

函館は我が国でも有数のイカの水揚げ港であるとともに、イカ珍味に代表される水産食品加工業を中心に、イカ釣り機やイカ釣り漁船など機械・電気・製造といった製造業も集積した、文字どおり「イカの街」としての産業クラスターが形成されています。

令和4年度
オンライン開催
第1回イカ資源評価と予測に関する講演会
【主催】一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構、函館市
【共催】地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場
【後援】函館水産試験場、函館市議会、函館市漁業協会の会、函館市工業団地振興会、函館市水産会、函館市漁業協会の会、函館市水産試験場

オンライン開催：2022年6月13日（月）14:00～17:00
録画配信予定：2022年6月14日（火）～21日（火）15:00まで
参加無料
(事前申込制)

1. 開会挨拶 一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構 推進機構長 磯崎 直貴
2. 講演
講演1. 「日本海におけるスルメイカの資源動向と漁況予測」
国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源調査センター 研究員 野島 三郎 氏
講演2. 「道南海域におけるスルメイカの漁況と2022年度北上期調査結果」
三原 崇次 氏 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 管理研究グループ 主任研究員
講演3. 「主要イカ類（アカイガサ）の資源と漁況の動向」
阿保 純一 氏 国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源調査センター 研究員 野島 三郎 氏
講演4. 「スルメイカの現状と今後の課題」
坂井 泰康 氏 一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構
3. 総合討論

申込方法 申込締切：2022年6月6日（月）

●参加希望の方は、WEBフォームまたはメールよりお申込み下さい。
➡ <https://forms.gle/Ngt4M2XMZ8Sseb39>
➡ office@marine-hakodate.jp

●メールでのお申し込みは、件名を「イカ資源講演会申込」とし、①氏名 ②所属 ③電話番号 を明記し、お申込み下さい。
●申込された方へ視聴のためのURLを後日メールにてご案内いたします。
●メールが来ない場合は下記問い合わせ先にご連絡ください。
※電話・FAXでのお申込みはお受けできませんのでご了承ください。

お問合せ先
一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構（函館市井天町20番5号）
TEL：0138-21-4700 E-mail：office@marine-hakodate.jp
※申込いただいた事項は、参加者とりまめ、連絡等に使用しますので、それ以外の目的には使用しません。

オンライン講演会のチラシ

しかし、地元市場におけるスルメイカの取扱量（生鮮と冷凍）は年々減少しており、地域経済に大きな影響を及ぼしています。こうしたことから、当機構では、これまで地域の漁業者や水産加工業者に向けて、スルメイカの資源動向や今期の見通しなどの情報提供を目的として、講演会を開催してまいりました。

国立研究開発法人水産研究・教育機構の研究者から提供いただいた資料では、日本海側の資源量は昨年を上回り、過去5年間の平均並みとの予測が報告されました。また、世界中のイカ類資源についての動向も報告が行われました。

昨年に続き2回目のオンラインでの開催・録画配信となりましたが、道南地域の漁業者や水産加工業者などの水産業界関係者だけでなく、広く日本各地の水産関係者など約90名の参加がありました。

2. 地域と学術研究機関の連携

『キングサーモン完全養殖技術研究事業』

近年、海洋環境の変化などから函館市の主要水産物であるスルメイカ、サケ、天然コンブ等の不漁が続いており、水産業界は深刻なダメージを受けています。このような状況の中でも持続可能な漁業を維持するため、函館市では育てる漁業のウェートを高めることを目的に、従来行ってきた種苗放流事業やコンブ養殖に加えて、新たに「つくり育てる漁業」として、魚介藻類等の養殖に着手しています。市では、ブランド力が高く高価値で取引されるキングサーモンの完全養殖を目指し、昨年度より養殖技術の確立に向けた取り組みを始めました。

本事業は、函館市、北海道大学大学院水産科学研究院、当機構との共同研究で行われており、海洋研究センターでは、主にキングサーモンの飼育試験を行っています。

本年度は南かやべ漁協管内の定置網で混獲されたキングサーモン63匹（昨年度56匹、死亡個体も含む）を入手、



成熟して婚姻色がでた雄（全長77.9cm）

海洋研究センターに輸送し飼育試験やサンプリングを実施しました。今年度得られた個体の平均体重は約4kgで、雌雄の比率は雄79%、雌21%でした。昨年度は、雄雌とも飼育期間中に成熟したものの、受精可能な卵は得られませんでした。今年度は、昨年同様に雄雌とも飼育下で成熟させることが出来、特に初めて天然雌親魚由来の子どもを得ることに成功しました。



ヨークサック（卵のう）をつけて泳ぐ稚魚

得られた子どもは順調に成長しており、今後の成長に期待が持たれます。また、昨年度北大系統のキングサーモンを用いて行った人工授精により得られた子どもも順調に成長しています。今後は、これらの魚を使って、海水への適応性や成長速度などの飼育特性を調べる予定です。本事業で得られた子どもたちの一部は、海洋研究センター1階エントランスホールの水槽で展示しておりますので、センターを訪れる際は実際の姿を見ていただければと思います。

また、今年度は函館大森浜沖に浮沈式生け簀が設置され、暴風や潮流に耐えられるかの調査を行い、11月には今後のキングサーモンの海面養殖に向けた試験として、サクラマスの養殖試験も開始されました。

当機構では、今後も引き続き、キングサーモンの完全養殖技術研究のベースとなる試験飼育を継続しながら、人工授精や孵化などの種苗生産技術に必要な基礎的知見を集積していく予定です。



エントランスホールで展示中の幼魚

2. 地域と学術研究機関の連携

『函館マリカルチャープロジェクト』 (内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」)

地球規模での海洋環境の変化に伴い、函館においても主要魚種であるイカや天然コンブの不漁が続く、主要産業である水産業や観光業への影響が懸念されています。

函館市は、このような状況を打破し、北海道大学水産学部や北海道立工業技術センターなどと共に地域の優位性を活かした研究開発と人材育成によるイノベーションを起こして地域活性化を図るため、令和4年度の内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に申請し、全国で唯一採択されました。

この事業は、キングサーモンとマコンブの完全養殖技術を確立するとともに、先駆的な取組みとして、魚類養殖により排出されるCO₂を海藻養殖により吸収する「地域カーボンニュートラル(RCN)養殖」の研究を推進し、地域で養殖産業群を形成するものです。そして更には、その現場での教育研究により企業と若者を集め地域へ定着させることで、持続可能な水産・海洋都市の実現を目指しています。

正式な事業計画名は「魚介藻類養殖を核とした持続可能な水産・海洋都市の構築～地域カーボンニュートラルに貢献する水産養殖の確立に向けて～」ですが、養殖の産業化を函館の新たな水産・海洋に関する文化の形成に繋げたいとの思いも込め「函館マリカルチャープロジェクト」と名付けられました。

当機構では、このプロジェクトの構想段階から参画し、令和4年度からは函館市の委託を受けて、プロジェクトの管理運営等を担う『函館地域水産業創生計画事業推進支援業務』を実施しています。

「函館マリカルチャープロジェクト」の概要



RCN養殖産業においてGREEN人材が活躍

養殖産業群の形成と企業・若者の地域定着

令和4年度の「函館マリカルチャープロジェクト」においては、天然キングサーモンの孵化や天然・養殖コンブの成熟誘導(人工的に胞子をつくる組織を形成させる技術)に成功したほか、北海道大学地域水産業共創センターが開設するなど、概ね計画どおり順調に事業が進められています。

また、「函館地域水産業創生計画事業推進支援業務」においても、ホームページ及び公式YouTubeチャンネルの開設や、様々な機会を捉えてのプロジェクト紹介など、積極的な情報発信等に努めています。

〈「函館マリカルチャープロジェクト」の取組み状況〉

(1)キングサーモン完全養殖研究

- ①天然個体の雌雄の卵・精子により人工授精を行い、約9,000粒の受精卵が孵化しました。



- ②函館大森海域に「浮沈式生け簀」を設置し、現在、サクラマスを代用した海面養殖試験を実施しています。



(2)マコンブ完全養殖研究

- ①昨年7月20日より、天然マコンブ及び促成マコンブを高栄養・高照度・短日条件下で培養する成熟誘導試験を開始しました。



- ②9月5日より、成熟誘導した天然マコンブ及び促成マコンブを母藻として採苗作業を行い、種苗生産を開始しました。



(3)大学改革・人材育成

- ①昨年10月1日に北海道大学「地域水産業共創センター」が開設され、11月3日にはキックオフイベントを開催しました。



- ②11月4日には、共創センター開所記念の第1回「地域懇話会」を開催し、センターの設置目的等を説明しました。



〈「函館地域水産業創生計画事業推進支援業務」の取組み状況〉

- (1) 昨年6月28日に「函館マリカルチャープロジェクトキックオフシンポジウム」を開催しました。



- (4) プロジェクトの概要等を紹介する「マリカルオープンセミナー」を開始しました。



- (2) 9月30日に函館マリカルチャープロジェクトホームページを開設しました。



- (5) 海洋研究センター来館者や視察団体等にプロジェクトの概要等を紹介しました。



- (3) 9月30日にプロジェクト公式YouTubeチャンネルを開設しました。



- (6) 海洋研究センターエントランスホールにプロジェクト紹介パネルを掲出しました。



2. 地域と学術研究機関の連携

令和4年度受託研究事業の概要

1. 「漁海況情報に基づく南かやべ沿岸の定置網への小型マグロ入網予測と回避・放流手法の検討と実施」(委託元：南かやべ漁協)

各種海洋環境データに基づいて、クロマグロの来遊予測に加え、スルメイカ、ブリ、マイワシなどの来遊予測情報を、南かやべ地区の定置網漁業者に向けて提供しました。これらの情報は、定置網に「いつ、どのような魚種が入網し、いつまで続くか」など、漁の予測に活用されています。

2. 「洋上風力発電施設からの水中音や航空障害灯が魚類および海生哺乳類の行動に与える影響に関する飼育実験研究」(委託元：(一財)漁港漁場漁村総合研究所)

北日本の日本海沿岸に設置が計画されている洋上風力発電施設からの水中音が、回遊性並びに定着性魚類・イカ類、海生哺乳類などの群れ、あるいは個体の行動に与える影響を、飼育実験によって調べています。

本年度は、海洋研究センターの大型実験水槽に水中スピーカーを設置し、水中音がスルメイカの群れ行動に与える影響評価を行いました。スルメイカは、函館市古部沖の定置網にて140個体を採集し、実験に用いました。

また、青森県営浅虫水族館でも水中音が浮魚類(あじ・さば)の行動に与える影響評価を行いました。

これらの試験結果は、洋上風力発電施設の設置が予定されている海域の海洋生物群集の唼集や忌避に対する影響評価の基礎的知見として活用されるとともに、得られた成果を施設計画地域の漁業者へ情報提供される予定です。



水中音が、スルメイカの群れ行動に与える影響を調査する実験の様子

3. 水産海洋と市民生活の調和

海洋研究センター大型実験水槽での研究(展示)の状況

海洋研究センターには、300tの大型実験水槽があります。この水槽は、水流や温度を調節することができ、「生きたまま」生物の測定実験が可能です。本年度も、「群来」のメカニズム



ニシンの産卵行動実験の様子

解明のためのニシンの産卵行動実験や、釣りの対象魚であるサバなどの大衆魚を用いた実験から、近年漁獲量が減少しているスルメイカの成熟・産卵に関する研究(実施機関：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)など、1年を通して海洋研究センターの入居機関による様々な研究が行われてきました。この水槽の観察窓は、一般開放エリアに面しているため、最先端の研究を来館者の皆様に間近でご覧いただけるようになっています。

3. 水産海洋と市民生活の調和

小中高校等の体験学習等の受け入れ



体験学習の様子

令和3年には、新型コロナウイルス感染症により多くの活動が自粛されましたが、今年度は少しずつ来館者も戻り、函館市内及び道内外の幼・小学校3校、中学校6校、高校・専門学校4校で合計400名が海洋研究センターの見学に訪れました。当日は、海洋研究センター及び函館の水産業の現状について講義を行う他、施設見学の際は普段は入れないバックヤードで飼育魚への餌やり体験等を行いました。更に、各学校の希望に応じて、サケ科魚類の解剖実習も行

い、生徒達の水産・海洋に関する関心を高めることが出来ました。

海洋研究センターでは、各学校等の要望に応じて、施設の見学や体験学習の受け入れを行っています。各学校での課外活動や自主研修のプログラムにもよりますが、海洋研究センターに関する簡単な説明と館内見学で1時間、これ以外の体験プログラムで1～2時間の時間が必要になります。4階の展望台または1階のラウンジでお昼休憩も可能ですので、水産・海洋の教育の場として、海洋研究センターを是非ご利用ください。

4. 推進機構の運営に関すること

令和4年度理事会・評議員会の開催状況

第1回理事会は、理事6名、監事2名の出席により、令和4年5月26日に開催し、令和3年度事業報告ならびに決算報告、定時評議員会の招集について審議され、全ての議案について異議なく原案どおり承認されました。

定時評議員会は、評議員5名の出席により、令和4年6月20日に開催し、令和3年度事業報告ならびに決算報告、評議員3名・理事1名の辞任に伴う後任の選任について提案し、全ての議案について異議なく原案どおり承認されました。なお、新たな評議員として、北海道大学大学院水産科学研究院長の都木 靖彰 氏、函館工業高等専門学校長の阿部 恵 氏、函館市内漁業協同組合長連絡協議会会長の坂田 憲治 氏、新たな理事には、北海道大学大学院水産科学研究院副研究院長の綿貫 豊 氏が各々選任されました。

	氏名	役職
評議員	久保 俊幸	函館商工会議所会頭 ※評議員長
	境 勝則	函館商工会議所副会頭
	安井 肇	北海道立工業技術センター長
	都木 靖彰	北海道大学大学院水産科学研究院長
	片桐 恭弘	公立はこだて未来大学学長
	阿部 恵	函館工業高等専門学校長
	坂田 憲治	函館市内漁業協同組合長連絡協議会会長
	工藤 壽樹	函館市長
顧問	松本 榮一	函館商工会議所名誉会頭
	伏谷 伸宏	東京大学名誉教授

	氏名	役職
理事	石尾 清広	函館水産連合協議会会長 ※代表理事
	古伏脇 隆二	函館特産食品工業協同組合理事長
	中村 正俊	函館市内漁業協同組合長連絡協議会事務局長
	村瀬 充	函館商工会議所副会頭
	綿貫 豊	北海道大学大学院水産科学研究院副研究院長
	嗟峨 直恆	北海道大学名誉教授 ※業務執行理事
	柏 弘樹	函館市企画部長
監事	西谷 裕幸	税理士
	吉村 健太郎	函館水産研修会幹事長
	須田 新崇	函館港湾振興会会長

海洋研究センターの利用について

海洋研究センターには、講演会や各種会議、研修会などに利用いただける大会議室・中会議室のほか、魚類などの解剖実習や水産物の料理講習会などが開催できる実習室をご用意しております。

会議室等のご利用は、原則として、水産・海洋に関する調査、試験、研究開発もしくは教育などを行う方が対象で、これまで水産・海洋および水産業に関する団体様の会議をはじめ、セミナーやフォーラム、ワークショップのほか、海難防止に関する講習会や研修、子ども向けの体験教室やイベントなどでの利用実績がございます。

利用のご予約は、利用者の皆様の利便性向上および手続き簡素化の観点から、「函館市公共施設予約サービス (<https://yoyacool.e-harp.jp/hakodate/>)」で受付けておりますので、お手持ちのパソコンより直接お申込ください。



展示中の「幸運をもたらす」と言われる『白いナマコ』

また、海洋研究センターは一般開放も行っております。

1階エントランスホールでは、函館近海に生息する魚や熱帯魚等も観察できる水槽をはじめ、入居する研究機関の取組む研究紹介パネルなどを展示しているほか、4階展望ロビーからは、函館港を一望することができます。皆様のご来館をお待ちしています。

開館時間：平日の午前9時から午後5時まで

休館日：土、日、祝日、12月29日から1月3日まで

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館の際は検温と手指消毒、マスク着用のご協力をお願いします。



第71回全国漁港漁場大会現地視察の様子（大会議室）

編集後記

新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年が経過し、この間感染の波が幾度も押し寄せ、函館市でも感染者数の累計が6万人を超えたとの報道がありました。

推進機構といたしましては、昨年からウィズコロナ/アフターコロナを見据えた事業展開を図るべく、講演会や報告会のオンライン開催をはじめ、海洋研究センターでの見学会や体験学習の受け入れ、全国大会や団体イベントの開催など、感染対策を講じた上での施設利用に努めてきました。

また、昨年度まで実施していたローカルイノベーション創出支援事業において関係機関と協議してきた地域創生に係る計画が、令和4年度の内閣府の交付金事業として全国で唯一採択され、持続可能な水産・海洋都市の構築に向けて新たに函館マリカルチャープロジェクトとして始動しました。

このプロジェクトのテーマのひとつが、機構が市の委託を受けて取り組んでいるキングサーモン完全養殖技術研究であり、海洋研究センターではキングサーモンの飼育試験を担い、昨年は天然魚の孵化にも成功しています。

平成15年3月に函館国際水産・海洋都市構想が策定されて20年目を迎える今、こうした新たなプロジェクトへの取り組みにより、改めて構想が目指してきたまちの姿が具体性を持って見えてきた気がします。さらに昨年は海洋研究センター前の弁天地区岸壁の整備も再開されました。海洋研究センターを整備するにあたっては、ここ旧函館ドック跡地を多くの人々が海と科学にふれあうことができる研究拠点基地「(仮称)函館マリンサイエンスパーク」として検討してまいりましたので、こうした岸壁整備再開などの動きも構想のこれからを展望する上で良いタイミングと捉まえることができると思います。

推進機構は、構想の推進母体としての役割を果たすべく、今年も構想実現に向けての取り組みを積極的に進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

また、昨年末に入ってきたニュースですが、海洋研究センターに入居している北海道大学北極域研究センターの齊藤誠一研究推進支援教授が、「衛星リモートセンシングを利用したスマート水産業を実現するシステムの開発及び普及」の功績により、令和4年度北海道科学技術賞を受賞されました。心からお祝い申し上げますと共に、これからもこうした地域に貢献する研究成果が海洋研究センターから生まれることを大いに期待したいと思います。

一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構

〒040-0051 北海道函館市弁天町20番5号 函館市国際水産・海洋総合研究センター内

TEL : 0138-21-4700 FAX : 0138-21-4601

E-mail office@marine-hakodate.jp <http://www.marine-hakodate.jp>